

6-2 最終処分場計画

1. 現状

- ① 熔融スラグのみを埋め立て、浸出水処理施設（30m³/日）を備えたクローズド方式。
- ② 建設当初計画では第1期から第5期までの埋め立て容量 140,100m³を予定し、現在第1期処分場（20,800m³・工事費 491,400千円）の埋立を行っています。
- ③ スラグはコンクリート二次製品やアスファルト用骨材として、公共工事を中心に再利用。



	H18	H19	H20	H21	H22
発生量	4,342 t	4,272 t	4,648 t	4,277 t	4,120 t
再利用量	2,567 t	2,577 t	1,531 t	1,157 t	960 t
再利用率	59.1%	60.3%	32.9%	27.0%	23.3%

- ④ 平成21年度末、第1期処分場の約半分が埋まっています。

2. 課題

- ① 近年の景気低迷の影響や公共工事の減少により、スラグ再利用が著しく減少しています。処分場第1期分が、あと数年で埋まることになり、第2期処分場建設が急務です。
- ② 現状に適した形で当初全体計画（1期～5期）の抜本的な見直しが必要です。
- ③ スラグ特性と地域特性を考慮した跡地利用計画の検討が必要です。
- ④ コンクリート二次製品やアスファルト用以外のスラグ再利用先の開拓が必要です。

3. 計画

(ア) 事業

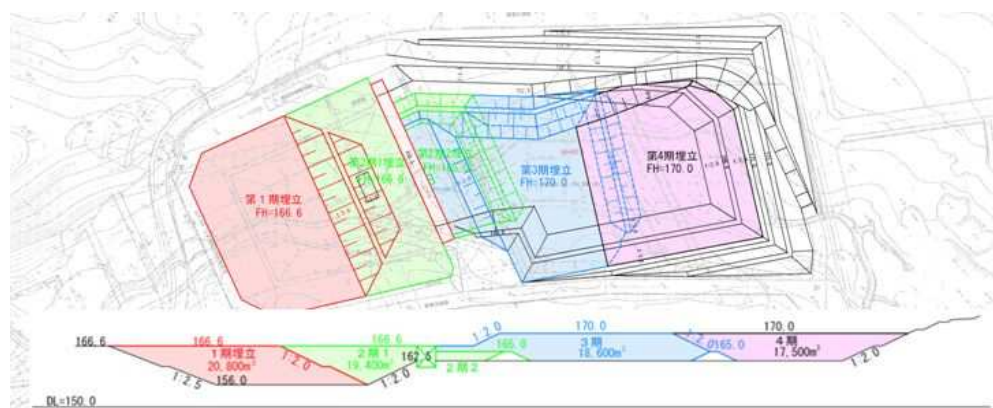
- ① 利用方法や販売条件を見直し、スラグ再利用の促進を図ります。
- ② 平成22年度可茂地域循環型社会形成推進地域計画を市町村と協議の上策定し、環境省に承認を受けました。これにより市町村の浄化槽設置整備事業と共に最終処分場建設費交付金として、財源を確保する計画としました。

※詳細は【資料6 可茂地域循環型社会形成推進地域計画（抜粋）】にて掲載

(イ) 施設整備計画

今後3期に及ぶ処分場の建設を、可能な限り投資コストを抑え、更に将来の埋め立て量等の激変にも対応できる計画としました。また、国の地域計画として位置付け、1/3の交付金対象としました。

	埋立期間	埋立面積(m ²)	埋立量(m ³)	覆土量(m ³)	埋立容量(m ³)
第1期	H11 - H26	6,200	19,200	1,600	20,800
第2期	H27 - H34	4,300	16,200	3,200	19,400
第3期	H35 - H42	4,600	15,500	3,100	18,600
第4期	H43 - H50	4,400	14,600	2,900	17,500
全体	H11 - H50	19,500	65,500	10,800	76,300



年度別事業費

単位：百万円

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
事業費			第2期処分場建設工事				
			基本設計 1 2 地質・アセス 1 3	実施設計 2 5	施工管理 1 4 工事費 2 7 7		
			計 2 5	計 2 5	計 2 9 1		
交付金1/3			8	8	8 7		
自己負担額			1 7	1 7	2 0 4		

年度	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
事業費				第3期処分場建設工事			
				基本設計 1 2 地質調査 5	実施設計 2 0	施工管理 1 3 工事費 2 1 6	
				計 1 7	計 2 0	計 2 2 9	
交付金1/3				6	7	4 6	
自己負担額				1 1	1 3	1 8 3	

※詳細は【資料7 ささゆりクリーンパーク最終処分場マスタープラン（抜粋）】にて掲載

4. 跡地利用

周辺環境及び地域特性を考慮し、開けた丘陵地の立地条件を踏まえて低炭素型の跡地利用として計画し、1. 森林化 2. 草原化 3. 菜の花プロジェクト 4. 風力発電 5. 太陽光発電などについて検討します。今後地元との協議の上計画立案します。